

# 梅園周 の取組み

一部ご紹介

## 4年間の実績と今後に向けて

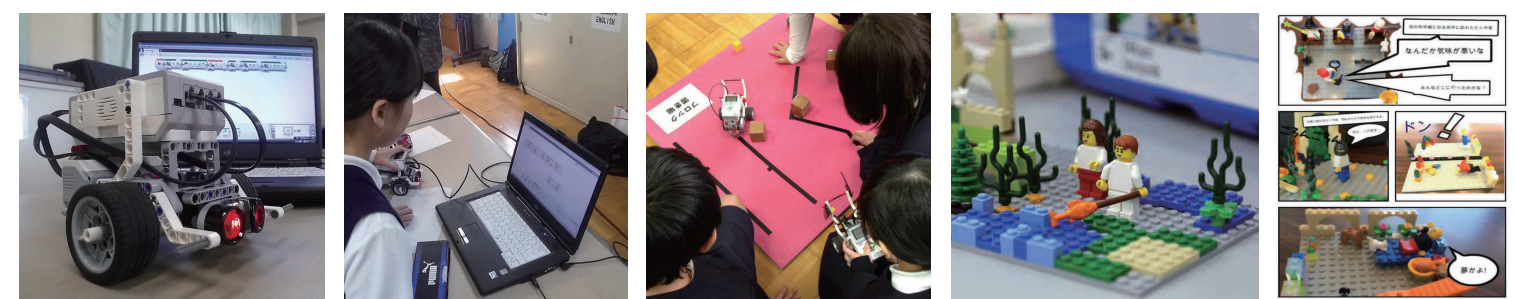


皆様から議会に送り出していただき丸4年が経とうとしております。  
私自身、この4年を振り返ってみますと、様々なことがあり、時が瞬く間に過ぎました。地域に根付いた議員を志し、皆様から多くのご意見・アイデアを頂き、様々な形で実現させて頂きました。今回、その一部ではございますが、私が携わらせて頂きました内容をご紹介します。他にも様々な形で現在進行しております。特に、防災対策は地域の皆様が危惧する1つだと思いますが、他都市で導入されているような大規模災害時の避難所生活における必要物資を民間企業と協力し、皆様に届けられる仕組みを大阪市にも取り入れてもらうように働きかけています。  
これからも、地域の皆様が安全・安心して暮らしやすい街として、一緒に取り組んでまいりたい所存です。地域のため、阿倍野区のため、大阪市のため、初心を忘れず全力で邁進していきます。



### 民間企業の教育手法を取り入れた実践型ICT教育 阿倍野区版STEM教育スタート!!

阿倍野区の教育が日本の物づくりの礎に



阿倍野区と世界的玩具メーカーレゴジャパン株式会社レゴエデュケーションが新しい質の高い教育実現に向けた包括協定を昨年締結しました（行政区としては全国初）。  
また、この協定に関し、この2者に加え大阪教育大学科学教育センターと阿倍野区内の大阪市立の幼稚園、小・中・高校で構成する阿倍野区公立学校新教材活用研究会が連携推進の取り組みに向け覚書を結びました。この締結・覚書により、産官学が協力し大阪市阿倍野区は教育に関する新しい実践型ICT教育、STEM教育がスタートしました。  
この協定・覚書締結に関わった一人として今後、阿倍野区での子ども達の学力が向上し、またこの阿倍野区発の教育手法が大阪市全域及び、全国的な拡がりを見せる可能性を信じ、感慨深いものがあります。

日本の子ども達の算数、数学及び科学の活用能力の低さが問題視されており、日本人が得意としてきた「物作り」の伝統やこれから必要であろうパソコンやスマートフォンに代表される情報通信機器（ICT）活用能力の育成のためには、新たな発想および情報リテラシー教育が現在の情操教育に加え幼少期から求められています。これらの課題解決のために自治体初の試みとして産官学が連携することで、それぞれの強みを活かし児童・生徒の個性を尊重し

番号	課題	全国学力算数調査(H24同等内容・類題)の正答率	阿倍野区における導入校での正答率	設定課題
1	132+459	95.8%	92.9%	繰り上がりのある加法の計算をすることができる
2	4.6-0.21	63.5%	55.7%	少数の減法の計算をすることができる
3	90×0.7	90.8%	88.6%	少数の乗法の計算をすることができる
4	一周80mmのタイヤが0.7回転したときの距離(式の表記)(答え)	90.8%	87.1%	少数の乗法の計算をすることができる
5	二種類のロボットのタイヤの大きさの割合「黒いタイヤの周(周の長さ)は12cmです。白いタイヤの周は、黒いタイヤの周の0.6倍です。白いタイヤの大きさを求めよ」	34.3% (数字では黒いテープ、白いテープ)	71.4% (+37.1%)	場面と図を関連付けて、二つの数量の関係を理解している
6	5日間の収穫物の一日平均個数	41.3%	51.4% (+10.1%)	1に当たる大きさを求めるために、除法が用いられることを理解している
7	5日間の競争の一回平均時間	87.1%	88.6%	平均の意味を理解し、測定値の平均を求めることができる
8	ロボットを目的地にゴールさせるプログラム	(87.1%)	88.6%	平均の意味を理解し、測定値の平均を求めることができる
	ロボットを目的地にゴールさせるプログラム		40.0% (完全正解)	論理的に考え、根拠に基づいて説明することができる

\*大阪教育大学科学教育センターによる調査・分析結果より

つつ、たくましく生きる力をつけるため、授業の中に、工学的な要素（プログラミングロボット学習・タブレット端末を使った言語学習）を取り入れ、創造力・観察力・表現力・プレゼンテーション力・論理的思考力等が培われ、知的好奇心・探究心を喚起し、日頃の学習効果の向上が期待できます。現に今月、大阪教育大学科学教育センター仲矢特任准教授による「新教材活用研究（ロボットプログラミング学習）の効果」として同校による調査・分析の結果発表（左図参照）が行われ、理数学分野における効果について、全国学力調査（H24年同等内容・類題）と比べると、特に「場面と図の関連付け」では70%以上の生徒が正解（全国正解率34%）し、また、「二数量の関係の理解（小数の割算）」についても50%を超える生徒が正解（全国正解率41%）し、この取組によって、具体的な場面の理解が促された可能性が示唆されたことが紹介されました。さらに、全

国での比較はないものの、プログラミングに関して、論理的に考え、根拠に基づいて説明することができるかどうかの問題では、40%の児童が完全正解との結果がでました（計算が得意でない子たちからも、完全正解あり）。科学・技術・工学・数学の知識を体験的に習得できる「ロボティクス教材」。言語能力をはじめ思考力・表現力を磨く「言語学習教材」。いずれも「手を動かし、作りながら学ぶ」というこれらの教材を使い、与えられた課題に向かって夢中になって取り組む中で、様々なスキルが身に付き、協同学習や自己表現力・問題解決能力・創造力を育みます。グローバル化が重要視されている中、産業界において理数系の能力・及び英語力がより必要になってきます。全国初としての阿倍野区の取り組みが、国際的な人材の育成に繋がり、また、阿倍野区の国際化推進に寄与し、これからの日本の「物作り」の礎になることを期待します。

### 防災特集

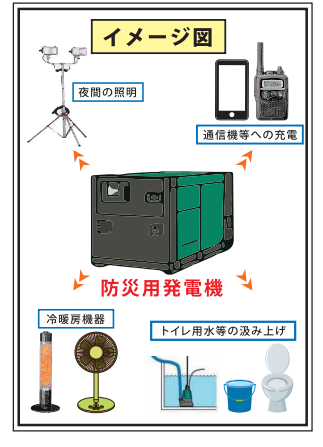
## ～「阪南公設市場跡地」を地域防災活動拠点として位置付ける方針を橋下市長が表明～

以前より、阪南地域の住民の皆さんが要望していた「阪南公設市場跡地」活用方法について、橋下市長は昨年末、該当地に関して、売却方針から一転し、「防災公園として位置付けた整備の方向に」と表明しました。阪南地域の住民数を考えると、想定される被災者数は、現状の防災拠点だけでは対応できません。また、南部地域にはお年寄りや単身高齢者世帯が多く、万が一の場合、南港通を横断しなければならず、指定避難場所への誘導や補助には人手が足りない状況が想定されます。こうしたことから、以前より、地域住民の皆様が一丸となって「阪南公設市場跡地を防災公園に」と要望しており、また、私自身、防災面の地域実情を踏まえると、皆さんと同じくその必要性を感じ、2014年11月、市長に大阪維新の会阿倍野区選出議員団による要望書を私から提出しました。  
今後は住民の皆様と市・区・消防を含め各局とが協議する方向となっております。災害時には一時避難所として、また、日頃は地域防災活動や地域活動の場としても使える防災公園として整備される予定です。



## 阿倍野区内の収容避難所に 防災用発電機が設置される方針です。

以前より要望していました



南海トラフを震源とする巨大地震の発生が危惧されており、また、直下型地震の震源となる活断層は日本中に分布しています。津波や地震火災、大雨による河川の氾濫も含め、防災対策や災害への備えが広く必要なのは言うまでもありません。中でも、4年前の東日本大震災や、20年の節目を迎えた阪神淡路大震災の教訓の1つに緊急用の電源の確保が指摘されております。  
過去の教訓を元に、非常用発電装置や災害用の応急電源の手当てが必要だと思いますが、大阪市内を見渡しますと、避難所での防災用発電機の設置には行政区ごとにバラツキがあり、阿倍野区にはカセットガスボンベを使う発電機だけでした。私はこの発電機だけでは緊急時の対応の遅れを危惧し、指摘しておりましたが、今回、阿倍野区の平成27年度の運営方針で、収容避難所等に本格的な防災用発電機を設置する方向になりました。これにより、災害によって停電が発生しても最低限の電源を確保することができます。